

製品名: FMO5 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86809**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:60 kDa; Observed MW:60 kDa

抗原情報

遺伝子名	FMO5
別名	Dimethylaniline oxidase 5; Hepatic flavin-containing monooxygenase 5
遺伝子 ID	2330
SwissProt ID	P49326
免疫原	ヒト FMO5 の合成ペプチド

背景

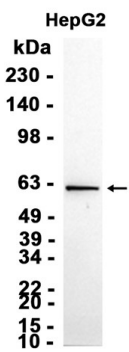
食事由来のアミノトリメチルアミン（TMA）の代謝性 N 酸化は、フラビン含有モノオキシゲナーゼによって行われ、ヒトでは遺伝性

の FMO3 多型性を有し、その結果、TMA N 酸化能が低下した少数の集団が魚臭症候群（トリメチルアミン尿症）を呈する。この酵素には、胎児肝臓に見られる FMO1、成人肝臓に見られる FMO2、そして FMO3 の 3 つの形態があり、これらは 1q23-q25 領域にクラスター化した遺伝子によってコードされている。フラビン含有モノオキシゲナーゼは、NADPH 依存性フラビン酵素であり、薬物、農薬、および生体異物中のソフトな求核性ヘテロ原子中心の酸化を触媒する。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2009 年 1 月]

研究分野

-

画像データ



FMO5 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して HepG2 細胞抽出物をウェスタンブロット分析しました。